

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 4年 3月7日
明美ヶ丘こども園

1. 本園の教育目標

- ・明るく健康で、生き生きとしている子ども
- ・自分で考え、工夫し、意欲を持って取り組む子ども
- ・心豊かな、思いやりのある子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 1, 安全管理の課題を職員全体で検討し、園独自のマニュアルを作成する。
- 2, 子ども達に育てたい力を職員全員が共有した上で、保育活動の見直しをはかり、実践していく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	多様な防災訓練を計画・実践・振り返りをして、自園に合わせたマニュアルを作成していく	B	*評価項目で防災訓練について取り上げたことで、職員間の意識向上につながった。 *今年度は特に自由場面が多い自園の生活に合わせて、避難訓練を行い子ども達への意識づけになった。今後は訓練回数を増やし、臨機応変に対応できるよう訓練することが大切であると感じる。 *様々な場面を想定した避難訓練が出来たことで、新潟市の防災マニュアルに、自園に即した部分を付け加え、自園のマニュアルを作成しようと思ったが、今年度は検証段階で終わった。 *不審者対策については、形式はできたが、訓練は行えていないので、来年度以降の検討事項となっている。
2	ヒヤリハットの記録を検証し、園内外の事故防止に取り組む	B	*ヒヤリハットの記録用紙を自園独自のものを作成し、書きやすく分かりやすくなった。 *各学期毎に振り返りをする事で、どこに危険があり課題があるか見つける事ができた。 *評価項目に取り上げたことで、事故防止・安全への配慮の意識が職員ばかりでなく、子ども達も高まり、子どもたち同士も声を掛けあう姿が見られた。
3	園内研修を充実させ、保育の質を高め、実践していく	B	*昨年度の反省から、ひとりの担任の問いについて、少人数グループで話しやすい環境にしたことはとても良かった。そこで各担任からのアドバイスや意見がもらえ、特に経験の浅い職員にとってはいい研修になった。 *アドバイスを受けた職員はその意見をどのように生かしたかを報告してもらうことで、一緒に学べたと思う。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	・今年度は災害・事故防止について全体で話し合う機会が増えたことで、職員と子ども達の意識が高まった。たくさんの課題が出たことで話し合いに時間が掛かってしまい、マニュアル作成までいかなかったため、来年度以降引き続き取り組んでいく必要がある。 ・園内研修は、自分の保育の悩みや躓きに対して、様々な方面から意見をいただき、自分の保育の良さや気づきに繋がり、よりよくしようという向上心にも繋がった。今後も向上心に繋がる研修計画が必要である。 重点目標にある、子ども達に育てたい力を共有の上、保育活動を見直す点についてはその活動を継続して、その結果を卒園時に振り返りが必要である。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	防災について	<ul style="list-style-type: none"> * 多様な防災訓練を計画・実践を繰り返して、より防災意識を高めていく。 ・ 乳児部同様幼児部も毎月行う。(4月から) ・ 乳児部・幼児部合同での実施の場合は、予告なしの訓練も行う。 * 令和4年度の振り返りとともに、実施した放課後に職員全体で集まって短時間で振り返りを行い、問題点や見直しを共有化する。 * 新潟市の防災マニュアルを研鑽するとともに、自園に即したものを追加し、自園に合った防災マニュアルを完成させていく。
2	安全管理について	<ul style="list-style-type: none"> * 前年度の検証記録を継続して、怪我のおきやすい条件を知り、気を付けるべきことを知ることで、職員の安全管理意識を高めるとともに、子ども達自身にも事故防止や安全管理の意識を高めていく。 * 遊び方やルールについて職員全体で見直し、園内外の事故防止に取り組む。
3	園内研修について	<ul style="list-style-type: none"> * 新人の育成や体制が変わることを踏まえ、「明美ヶ丘こども園」の教育方針・教育理念を再確認し、当園のめざす保育として、子ども達に育てたい力を職員全員が共有した上で、テーマを決めて取り組む。 * 不適切保育防止に取り組む(ガイドラインをもとに) * 実践内容を保護者にも伝わる方法として、ICTを利用して見える化に努力する。

6. 学校関係者評価委員会の評価

評価の項目及び取り組み内容においては、職員も施設関係者も共にこれからも継続していくことで、成果を出してほしいということで、今年度はB評価となった。

コロナによる制限が緩和されていく次年度に引き継いで、評価してほしいとの意見をいただいた。

その他保護者代表・地域の代表・地域小学校の代表様から下記のようなお話しをいただいた。

- ・ 防災については、とても必要なことである。この取り組みをより充実させ続けていったらよい。
- ・ 災害の際は、まず外へ逃げることが。
- ・ 避難経路の確認。消火器やAEDの使い方を職員が実際に行なってみることが大切。
- ・ コロナ禍の影響もあり、運動機能が低下している。小学校でも怪我は多い(特に跳び箱、鉄棒)。しかし、そうした中で怪我をするのが当たり前ではなく、職員が子ども達の運動の能力の低下している現状を把握し、準備運動きちんと行い、怪我をしないようにしっかり指導していくことが大切である。
- ・ 共働き世帯の増加、コロナ禍等々により、保護者同士のつながりが希薄になっている。しかし、その中でも繋がりたいと思っている方もいるので、卒園しても繋がっていけるように保護者や卒園児が参加できる行事や活動をしてほしい。
- ・ 地域との連携をしてほしい。
- ・ 「こども主体」という教育理念をアピールして、今後は園の独自性を発揮していくべきである。
- ・ 小学校も主体性を重んじ、考えさせる指導を実践している。デジタル化が進み、子ども達の周りには生れた時から既に、デジタルな物に囲まれている。だからこそ、乳幼児期や学童期にはアナログな物を大切にしていける必要がある。
- ・ ICT化を進めることは悪いことではないが、保護者の立場からすると添付ファイルを開くことは手間である。また、本文の内容によっては開かないこともある。本文の内容や、写真を活用したり、内容によっては紙媒体を活用していくとよい。